

# 須崎港湾口地区防波堤

# 完成



西防波堤：480m

見晴らし公園(須崎斎場南)から須崎港を望んだ写真

須崎港湾口地区防波堤は、恒久的な津波対策として昭和58年に港湾計画に計画され、平成4年から国が直轄事業として工事を行ってきました。平成13年には東防波堤550mが完成し、整備主体を西防波堤に移し整備を進め、平成21年には延長480mの西防波堤が完成しました。平成26年3月に東防波堤の残り390mが完成したことにより、長年整備を進めてきた津波防波堤全長1,420mが、ここに完成しました。

## 事業の概要

鳥形山鉱山で産出される石灰石は、須崎港から国内外へ出荷され、鉄鋼やセメントなどの企業の生産活動を支えています。須崎港のセメントや原木などの取り扱いを含めた港湾取扱貨物量は、高知県全体の約70%を占め、地域の産業や物流を支える重要な拠点となっています。

一方、リアス式海岸の形状をした良港である反面、津波の影響を受けやすく、過去幾度となく大きな津波被害を受けてきました。そのため、恒久的な津波対策として湾口への防波堤の整備と海岸防潮堤の整備を実施しました。

湾口への防波堤の整備によって、津波による被害を軽減することができ、また湾内の静穏度が向上することで、港湾がさらに利用しやすくなります。